

2017 実習前期レポート

今学期、実際にウインチェスターの留学生に教えるという体験を通して、自分自身をしっかり見つめなおせたと思います。初めの方から振り返ってみると、一回目の授業は三原さんと一緒に進めていく形でしたが、お互いの打ち合わせも不十分だったし、教材も少なかったし、授業の内容もだいたいしか計画を立てていなくて、準備の足りなさを痛感したのを覚えています。この失敗から、一回の授業を行うに当たっての事前準備が非常に重要だということを学びました。二人で作業を進めていく場合は、空いている時間に何回か話して、それぞれの役割を決めたり、授業の流れを通してみたりするべきだと感じました。

それから、教案はなるべく細かく作っておいた方がいいと感じました。いざ生徒の前に立って話すとなると、緊張が高まってほしい頭で考えていたことも忘れてしまう可能性もあるからです。あまりにも細かく書きすぎると、前に立っているにも関わらず、生徒の目を見れずに、紙ばかり見てしまうことになってしまうので、程よい教案作りも大切だと感じました。

二回目からは一人での授業となりました。一回目の授業が悲惨に終わってしまったということもあり、二回目の授業をするにあたって、教案、教材ともにきちんと準備ができていたのではないかと思います。自分が考えていたように進めることができ、終わった時には達成感というものを感ずることができたのを覚えています。それと同時に、一気に緊張感がなくなりホッと安心した気持ちもあって複雑な気持ちを味わいました。授業後のフィードバックの時にも、見ていたみんなからのコメントで良かった点を言ってもらえて、うれしい気持ちでした。準備に時間をかけた分、こうやって達成感を味わうことができたり、うれしい気持ちになれたり、自分自身とても満足いく授業作りができるのだとわかりました。

ですが、そのまま満足したままでは成長していかないと思いました。だから、先生から頂いたアドバイスを次から気を付けていくことで、駄目だった部分の改善につながるし、自分の成長につながると思ったので、毎週自分の反省点とみんなからのコメントと先生からのアドバイスを紙に書きあげるようにしました。例えば、CDを使う場合には、スクリプトを用意しておくというアドバイスを頂いてから作るようになって、いざという時に困らないことがわかったし、自分が読んで答えてもらうこともできるということに気づきました。また、ウインチェスターの学生は初級レベルであったため、なるべく視覚情報を取り入れると良いということから、説明する際にはジェスチャーを多く取り入れたり、アイテムを持ってきたりという工夫ができるようになったと思います。三回目の授業では、だいぶ慣れてきていましたが、ホワイトボードにペンで書くときに緊張で手が震えていて、しっかりした字が書けていませんでした。書きながら（フニャフニャした線になるな...。お願いだから手よふるえないでくれ...。）というのが私の心の中の気持ちでした。たった四人の生徒なのに見られていると思うと、私は緊張を抑えられないタイプだとこのとき実感し

ました。この手の震えは最後までなかなか直せなかったところなので、実習に行くまでに練習を重ねて改善するか、ホワイトボードに書かずに進めれるように、別の手段を選ぼうと考えました。

この時の先生からのアドバイスとして全員に言ったことでしたが、教科書通りにやりすぎているからもっといろんなことをやってもいいと指摘を受けて、台本通りにばかり行うのではなく、自分なりに発展させていくことが大事だということに気がきました。課によって広げやすい内容か、広げていくのが難しい内容かというのがありましたが、回数を重ねていくごとにオリジナリティーがでてきて、最後には私たち5人それぞれのカラーが見えてきたのではないかと思いました。そういった授業を目の前で見えてきて、自分では膨らませることができなかった点や教材の工夫など、他人の作る授業からも考えさせられたことや、参考になったことなどはこれまで多くありました。自分が少しずつ成長していったように、周りのみんなも着実に成長を遂げていると感じました。それと同時に、私もみんなに負けてられない、差をつけられないように頑張らなくてはというような感情も芽生えました。仲間だからこそ切磋琢磨し合って、今以上に自分を高めていけたらと思います。また、前期の授業を終える頃の、ウインチェスターの学生たちの日本語力の成長には嬉しかったし、感動したし、何よりやりがいを感じました。サンキュウレターにもあったように、ひらがな、カタカナ、そして漢字までも上手に書くことができている、今まで頑張ってきたよかったという気持ちになりました。こういった気持ちになれるのが教師だと学びました。

後期になると、前期以上に時間も長くなるし、人数ももっと増えて緊張も倍以上になると思いますが、その中でも、これまで以上に出来る良い授業を目指したいです。そして、多くの生徒にありがとうと言ってもらえるような教師になりたいです。